

の幾多の諸國風物、著者探訪の諸史料の寫眞亦珍らしく歐米會遊の人にも未見の人にまつても、興味ある讀物である。(四六版五〇〇頁、内外出版株式會社發行、價三、八〇)(西田)

●漢式鏡

後藤 守一著

題目の著が日本考古學大系の第一卷として刊行せられた。先史、原史、有史の各時代に亘つて各期更らに數卷の遺物を編述するもの、第一步として今ま漢式鏡の編著を見るものであるが、本冊は菊版九百餘頁に收むるに第一、第二の兩編とし、前者には漢式鏡に對する解説として更らに十一項に分ち我が國に於ける漢式鏡の研究、漢式鏡發見史、部分名及び文様の區別、型式の分類、年代の考定、本邦内地に於ける漢式鏡發見地名表、内地發掘漢式鏡各説、支那鏡の概述、朝鮮發掘の古鏡、日本内地發掘漢式鏡の文化史的研究等であつて後者は漢式鏡關係論文の摘述である。以上の説明を助くるに約七百の挿圖を以てされてゐる。

此種の試みは斯學に志すもの、最も必要とするものであつて本冊は即ち漢式鏡に對する凡てを網羅せる資料編みすべく、近時、漢式鏡に對する研究の益々其の微に入るに當り本冊の刊行さるゝを見るは最も時機に適したるもの云ふべく、編者の忠實なる資料摘要は斯學者の好適なる備忘録に外ならない。(東京市神田區今川小路、雄山閣發行、定價九圓)

●樂浪郡時代の遺蹟(圖版)

朝鮮總督府藏版

古蹟調査特別報告第四冊として題名の圖版上下兩冊が刊行せられた。本冊の包括する遺物の主要なるものは大正五年、關野貞博士、谷井濟一氏等によつて學術的發掘のあつた北鮮大同江畔の有數なる古墳墓數基の遺物と附近出土の重要な遺物とを網羅さるゝものであつて、就中、大同江面第九號墳の出土遺品の如きは驚異すべきものがある。爾來、遺物の一部分に就ては時々引證さるゝものあつて、其の綜合的發表を期待することに切實であ

つたが、今ま本冊の刊行を見て、益々其の價值深きものあることを是認するものである。

近時朝鮮に於ける考古學的調査は益々其の完備を來し而かも其の遺物の示現する量と質とは東亞文化の重要な地點をなしてゐる。曩に濱田耕作博士等によつて金冠塚遺寶の調査報告は其の南鮮に於ける驚到すべき事實を擧げたるに際し、北鮮に於ける近時の發掘は支那漢式文化の濃密なる所産を示現し、就中、昨秋、東京帝國大學の樂浪郡時代王肝墓發見の遺物中、漆器工藝は其の極致を示すものあつて、他方、同地方發見の銅器類と對稱して好個の文化的所産を提示し、今や樂浪郡發見遺物は斯界の注視するものとなつてゐる。此期に際し、本冊の刊行を見ることは最も深刻なる印象を與へるものと云へる本冊は四六四倍版、上下兩冊よりなり、鮮明なる圖版は精緻なる實測面と相待つて其の内容に光輝を與へてゐる兩冊包括する遺物遺跡は大同江面土城壁、封泥、銅錢、銅鐵鏃、埴、銅鐘、銅劍、銅器類、瓦當、陶壺、鏡鑑等の一切から第一乃至第十號古墳發掘の調査全部を收容せ

られてゐる。(朝鮮總督府發行)〔以上島田〕

● Bronzes antiques de La Chine.

Paul Pelliot 著

本書は在佛國の支那人 P. 陸氏の遺藏に係る支那古銅器類の圖録にして、ペリオ博士が其の解説並に銅器に關する研究を作成附載したるものである。圖版合計四十葉周代の尊、敦、鐘、洗、鼎、匜、甗、爵。漢代の温壺、銅器類、唐代の海馬葡萄鏡、花紋鏡、觀音像あり、其の籀文の銘文も漢字の活字を製して解説中に之を印刷し且つ其の意を翻譯してある。解説の文は英佛兩文を以てしたれば東洋考古學東洋美術史東洋文化史研究者には參考に値する。

● Indes Archaiques de Chine.

Paul Pelliot 著

本書は前書の姉妹篇として同じく陸氏所藏の玉器類の圖録にして前卷にペリオ博士の玉に關する研究を掲げ後卷に圖版並に解説を附してある。本文三十五頁、圖版四